

# 平成 25 年度継続事業に関する継続評価書

研究機関 : KDDI株式会社、財団法人九州先端科学技術研究所、  
株式会社セキュアブレイン、横浜国立大学、  
株式会社KDDI研究所、ジャパンデータコム株式会社

研究開発課題 : 国際連携によるサイバー攻撃の予知技術の研究開発

研究開発期間 : 平成 23 ～ 27 年度

代表研究責任者 : 水本 政宏

■ 総合評価 : 適 (評価点 18 点 / 25 点中)

(総論)

明確な成果目標を意識しながら引き続き研究開発を推進すべきである。

(コメント)

- 成果目標を明確にすべき。

(1) 当該年度における研究開発の目標達成(見込み)状況

(SABCD の5段階評価) : 評価 A

評価点 : 4点

(総論)

海外協力の実現や研究面で成果が得られ計画時の目標に達している。今後、各社間での連携強化が望まれる。

(コメント)

- 海外協力を実現され評価出来る。引き続き、協力関係を築いて欲しい。
- DNS サーバトラフィック関連で良い成果が出ている。
- 各課題間の連携が良く見えない。ある課題からのフィードバックで改良が図れるような枠組みを構築してほしい。

(2) 当該年度における研究資金使用状況

(SABCD の5段階評価) : 評価 B

評価点 : 3点

(総論)

予算計画書に基づいた妥当な執行を行っている。

(コメント)

- 受託企業間で若干の差は見られるが、適切に使用されている。

### (3) 研究開発実施計画

(SABCD の5段階評価) : 評価 A

評価点 : 4点

#### (総論)

計画通りに実行可能であり、引き続き、技術動向を注視しながら常に先進的な研究を心がけることが望まれる。

#### (コメント)

- 市販品の技術が追いつき始めているので、常に注視して、必要があれば計画の見直しをすべき。
- ボットネットのリスク及びその対策の必要性を明確にするべき。
- ボットネットの脅威に対し、対策の意義を整理して欲しい。(可視化の意義はわかるが、更にそれ以上の研究を目指すべき。)

### (4) 予算計画

(SABCD の5段階評価) : 評価 B

評価点 : 3点

#### (総論)

概ね妥当だが、各社の規定に基づいた予算計画となっていることの確認が求められる。

#### (コメント)

- 各社の規定に基づいた執行計画であるか確認して欲しい。

## (5) 実施体制

(SABCD の5段階評価) : 評価 A

評価点 : 4点

### (総論)

研究開発課題の目標達成のために十分な体制であり、引き続き、NICTとの連携を強めながら実施することが望まれる。

### (コメント)

- 十分に整っていると考える。
- NICTとの連携を更に強めるべき。
- 国への貢献を十分に考えて欲しい。